

慢性副鼻腔炎に対するオフロキサシンの少量長期療法について

木村 栄成 三宅 浩郷 坂井 真

東海大学医学部耳鼻咽喉科学教室

CLINICAL EVALUATION OF OFLOXACIN IN CHRONIC SINUSITIS — LOW DOSE LONG-TERM TREATMENT —

Hideshige Kimura, Hirosato Miyake, Makoto Sakai

Department of Otorhinolaryngology, School of medicine, Tokai University

We investigated the clinical efficacy of ofloxacin in 24 patients with chronic sinusitis. Ofloxacin was administered a daily single dose 200mg from six weeks to twelve weeks. The efficacy rate in the patient's complaints was 87% in rhinorrhea, 91% in nasal obstruction, 95% in post nasal drip and 85% in headache. The efficacy rate in the endonasal findings was

79% in redness of the nasal mucosa, 83% in edema or swelling of the nasal mucosa and 91% in nasal discharge. The efficacy rate of the X-ray findings was 53%.

Side effect included one patient with mild joint pain.

Ofloxacin was considered to be a safe drug which is useful for the low dose long-term treatment of chronic sinusitis.

はじめに

OFLXはPost Antibiotic Effectを持つ薬剤と言われている。そのため投与方法について、内科領域では色々な報告が成されている。すでに少量長期投与は、びまん性汎細気管支炎において有効であることが報告されている⁽¹⁾。今回我々は慢性副鼻腔炎に対し、OFLXの少量長期投与により、副作用が軽減できると考え、その有効性と安全性を検討したので報告する。

対象および方法

対象は平成3年1月～平成5年5月まで、当科を受診した慢性副鼻腔炎患者24例である。

症例を選択するにあたり、急性副鼻腔炎、慢性副鼻腔炎の急性増悪は除外した。また術後2年以上経過した症例は対象とし6例行った。重症度は中等度～軽度の症例とした。男女比は男性19例、女性5例であった。年齢は26才～68才で平均47.7才であった。

方法はOFLXを1日1回200mgを6週間～12週間内服投与した。投与時刻については一定時刻に服用するように指示した。

判定基準は日本化学療法学会耳鼻咽喉科領域の慢性副鼻腔炎薬効基準を参考にした。また薬効基準において付則項目は7日であるが、それを6週とし、その他は薬効基準に準じた。

X線検査は原則的に薬剤投与前と、6週後あるいは12週後に撮影し、自覚症状と同様に改善度の検討を行った。

結 果

Table 1 は自覚症状のうち鼻閉を取り上げて症状の程度による症例数の推移を示した。高度の症例は投与前で4例であったが、6週後、12週後は1例に減少した。中等度症例は投与前で16例であったが、6週後、12週後はそれぞれ2例と0に減少した。軽度および症状なしの症例では投与前に比べ、投与後の症例数が増加した。これは高度、中等度の症例が軽度、あるいは症状なしに推移したことを示している。他の自覚症状も同様の推移を認めた。

		投与前	6週後	12週後
症 状 の 程 度	高 度	4例	1	1
	中 等 度	16	2	0
	軽 度	2	11	5
	な し	1	9	8
合 計		23例	23	14

Table 1 Clinical efficacy of OFLX in nasal obstruction

各症例について、それぞれの症状の推移を判定区分し、それを元に自覚症状の改善度を求めた。鼻漏において症状の消失と改善を合わせ、改善以上は87%であった。同様に鼻閉は91%、後鼻漏は95%、頭重・頭痛は85%の改善度を認めた (Table 2)。

他覚症状の鼻汁量の症状の程度による症例数の推移は、OFLX投与により多量、中等量が減少した。少量、症状なしの症例はOFLX投与後6週間および12週後に増加したことが認められた。(Table 3)。

自覚症状と同様に各症例について、それぞ

		消 失	改 善	不 変	悪 化
鼻 漏	N = 22	46%	41	14	0
鼻 閉	N = 22	55	36	9	0
後鼻漏	N = 19	63	32	5	0
頭痛・頭重	N = 14	71	14	14	0

Table 2 Clinical efficacy of OFLX in subjective complaints

		投与前	6週後	12週後
症 状 の 程 度	多 量	4例	0	0
	中 等 量	12	5	2
	少 量	5	9	5
	な し	2	9	7
合 計		23例	23	14

Table 3 Clinical efficacy of OFLX in rhinorrhea volume

れの症状の推移を判定区分し、他覚症状の改善度を求めた。鼻粘膜の発赤は79%、鼻粘膜の浮腫・腫脹は83%、鼻汁量は91%、鼻汁性状は87%、後鼻漏量は90%であった (Table 4)。

		消 失	改 善	不 変	悪 化
鼻粘膜の発赤	N = 23	57%	22	22	0
鼻粘膜の腫脹	N = 23	48	35	17	0
鼻汁量	N = 21	41	50	9	0
鼻汁性状	N = 22	41	46	17	0
後鼻漏量	N = 20	55	35	10	0

Table 4 Clinical efficacy of OFLX in endonasal findings

X線所見の改善度は改善以上で53%であった (Table 5).

	著効	有効	やや有効	無効
症例数	7	2	4	4
%	41	12	24	24

Table 5 Clinical efficacy of OFLX in X-ray findings

以上の結果を判定基準に則って臨床効果を求めた。著効は9例 (39%)、有効10例 (44%)、やや有効、無効がそれぞれ2例 (9%)であり、有効以上は83%であった (Table 6)。

	著効	有効	やや有効	無効
症例数	9	10	2	2
%	39	44	9	9

Table 6 Overall efficacy rate of OFLX in low dose long term treatment

実際のOFLX投与症例を提示する。31才女性で重症度は中等度であった。左側のX線写真は投与前で、右側のX線写真は投与後の写真である。投与後のX線写真で陰影は明らかに改善していることが認められる (Fig 1)。

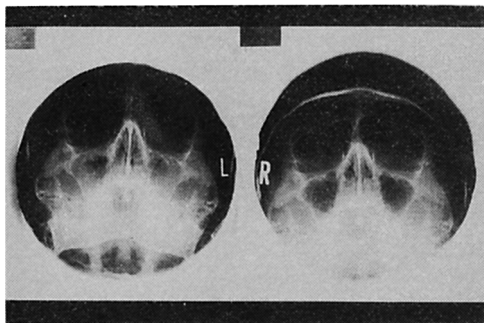


Fig. 1 Left before treatment. Right after treatment

副作用は1例で認めた。投与1週間目に間接痛を訴えたため、直ちに投与中止とした結果、間接痛は速やかに消失した。

考 察

OFLXの少量長期投与は、びまん性汎細気管支炎において有効であることが報告されている⁽¹⁾。

OFLXの従来投与方法である600mg 1日3回における慢性副鼻腔炎の臨床効果の結果は野末らによると約82%⁽²⁾、窪田らは85%⁽³⁾と良好な結果であるが、石田らは65.7%⁽⁴⁾と報告している。これらの結果は、今回我々が行った200mg 1日1回投与の結果と殆ど差はないと考えられる。

以上よりOFLXの少量長期投与は有用であると考えられる。

文 献

- 1) 中森祥隆 他：びまん性汎細気管支炎における気道・中間領域感染症の ofloxacin 長期療法, Chemotherapy 33, 570-576, 1985.
- 2) 野末 他：中耳炎ならびに副鼻腔炎に対する ofloxacin の臨床効果, 新薬と臨床 37, 1262-1266, 1988.
- 3) 窪田 他：慢性副鼻腔炎に対する OFLX の使用経験. 耳鼻臨床 81, 1669-1674, 1988.
- 4) 石田 他：オフロキサシンの基礎的ならびに臨床的検討. 耳鼻臨床 86, 447-464, 1993.

質 疑 応 答

質問 内藤雅夫（名古屋市）

ニューキノロンを長期投与するメリットはどこにありますか。安全面はマクロライド、β-ラクタム剤と比較してどうでしょうか。

質問 飯野ゆき子（帝京大）

OFLX は200mgでもかなり血中濃度があがるため、菌に対する影響が考えられるが、細菌学的結果と臨床的有用性との関係はどうでしたか。

応答 木村栄成（東海大学）

ニューキノロンの少量長期投与は副作用の軽減できると考え行った。

応答 木村栄成（東海大学）

細菌学的には消失した例も認められるが、これらの細菌学的検討もいずれ発表したいと思っている。